

令和4年5月17日

瀬戸市議会議長 水野良一 様

都市活力 委員長 西本 潤

都市活力委員会 行政視察報告書

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察期間・行程	令和4年4月19日(火)
2 視察先	愛知県春日井市 グルッポふじとう
3 視察項目	グルッポふじとうについて
4 視察者及び随行者	委員長 西本 潤 副委員長 松原 大介 委員 水野 良一 池田 信子 柴田 利勝 三木 雪実 藤井 篤保 伊藤 賢二 原田 学 議会事務局 課長補佐 北原 裕子 議事調査係 山下梨乃
5 その他	

グルッポふじとう について

1 事業の目的及び経緯	1960年代半ばから1970年代に本市の菱野団地とほぼ同時期に入居が始まったことや、少子高齢化による高齢化率、空き家率の上昇、小学校の統廃合など菱野団地と共通する課題を抱えるなかで、菱野団地の目指す「多世代交流拠点」を運営している「ぐるっぽふじとう」を視察し、開所に至った経緯や、コスト、運営状況などを調査することにより、先行事例として「菱野団地再生計画」推進の一助とすることを目的とする。
-------------	---

2 事業の概要及び事業費	藤山台の小学校3校の統廃合による学校跡地を活用し、地域の交流拠点として地域包括支援センター、図書館、子どもとまちのサポートセンター、コミュニティカフェ、各種会議室などがあり、事業費は建物整備5億8000万、敷地内整備2億3000万、周辺道路整備2億1000万、総事業費10億2000万円、年間の運営費1億7000万円となっている。
3 事業の効果	コミュニティカフェ、図書館、乳幼児と親の児童館など多世代の方の利用や放課後には小中学生の遊びや学習の場として多くの方が利用し、多世代の交流の場となっている。
4 事業の現時点での課題及び今後の方向性	<p>施設運営に関して、毎年1億7000万円かかる運営費に対して、グループふじとうでの事業収益が多く見込めないため、自主財源による運営が課題である。</p> <p>現在、利用者の多くが藤山台の住民であり高蔵寺ニュータウン全体としての利用が期待されるが、ここに訪れるための交通手段などの確保などが課題となっている。</p>
5 主な質疑・応答	<p>Q. 開所までの経緯と苦労された点と若い世代の参画がどのようであったか。</p> <p>A. 統廃合後の小学校活用検討を公募市民34名が参加し、改修設計に係るワークショップを開催し基本計画をまとめた。ワークショップには若い世代の方にも参画していただき開催できた。苦労した点として、限られた空間に導入する機能を収束する際に苦慮した。</p> <p>Q. 「グループふじとう」内には様々な施設があり民間事業者やNPO団体などが管理運営しているが、その現状と課題を伺う。</p> <p>A. 施設管理運営に携わる組織として、高蔵寺まちづくり株式会社、社会福祉法人スウィング、医療法人喜峰会があるが、施設全体の運営会議を毎月開催し、情報を共有し「グループふじとう」への来訪者のこどもとまちのサポートセンターや地域包括センターへの連携対応に繋げている。高蔵寺まちづくり株式会社は設立当初から市職員OBが高い構成比率となっているため、施設管理以外のエリアマネジメント事業を担う人材の確保、育成に取り組んでいる。</p>

	<p>Q. 施設の修繕・維持管理などはどのように行われているか。</p> <p>A. 指定管理業務については、少額（50万円以下）の修繕は指定管理費の一部で補い、大規模な修繕に市で対応している。</p>
<p>6 考察 (所感・本市への提言等)</p>	<p>施設の利用者も多く、多世代の人々が交流できる複合施設としての役割は十分に果たしていると感じた。本市の「菱野団地再生計画」との相違点として、地域住民等の意見聴取や情報発信に対して積極的に実施しているが、あくまでも市が事業主体であり、住民意見等を反映させながら実施していると感じた。本市においては、「みんなの会」主体の取組になっているため、市がもっと積極的に「菱野団地再生計画」を前に進めていく必要があると感じた。また、整備に係った費用、年間の運営費が多額であるため本市での事業の実施は予算規模からいってかなり難しいように思われた。</p>
<p>7 その他 (特記事項等)</p>	